

④ ユニットの据付けのつづき

- ユニット本体の水平度を確認してください。水平度は、水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。(ユニット両端での高さ許容差は3mm以内)
- 高さ調整・水平度調整後、上側ナット4箇所を締めてユニットを固定してください。



ユニット据付け時のお願い

- 上側ナットで高さ調整を行わないでください。ユニット本体に無理な力がかかり変形し、パネルが組付けできなかったり、ファン干渉音が発生することがあります。
- ユニットは必ず水平に据付け、ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付けに不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
- 化粧パネルを据付け後、ユニット高さの微調整ができます。詳細は化粧パネルの据付け説明書をご覧ください。
- 化粧パネルと天井面、および化粧パネルとユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。
- 化粧パネルをしぼらくの間取付けられない場合、またはユニットを据付け後に天井材を貼る場合は、据付け用型紙(梱包材天井ダンボール)を使用して、ユニット内へ差入れないための保護シートとしてください。

⑤ 冷媒配管

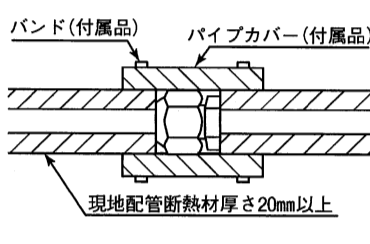
冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。冷媒R22で使用する際は既設配管を使用する場合は、下記点を確認してください。
 - ・フレアナットは製品に付属されているもの(JIS第2種)に交換してください。またフレア部は新たにフレア加工してください。
 - ・薄肉配管の使用は避けてください。
- 冷媒配管は、リン脱酸鋼合金線目無鋼管(C1220T、JIS H 3300)をご使用ください。また管の内外面は美観であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等(コンタミ)の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
- R410A以外の冷媒は使用しないでください。R410A以外(R22など)の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
- 据付けに使用する配管は室内に保管し、両端ともう付けする直前までシールしてください。冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具はR410A専用ツールを使用してください。

作業手順

- 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外す。
※ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。(このときガスが出る場合がありますが、異常ではありません。)
- 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
※配管の曲げはできるだけ大きな半径で行い、曲げなおしを何回も行わないでください。また、配管をねじったり、つぶしたりしないでください。
※フレア接続は、以下のように行ってください。
 - ・ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。
 - ・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナで右表の締付力で締めてください。
- 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締めてください。
- ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
※配管は断熱しないと結露し水漏れします。
- 冷媒は室外ユニットに充填されています。室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

パイプ径	締付力 N・m
φ6.35	14~18
φ9.52	34~42
φ12.7	49~61
φ15.88	68~82
φ19.05	100~120



⑥ ドレン配管

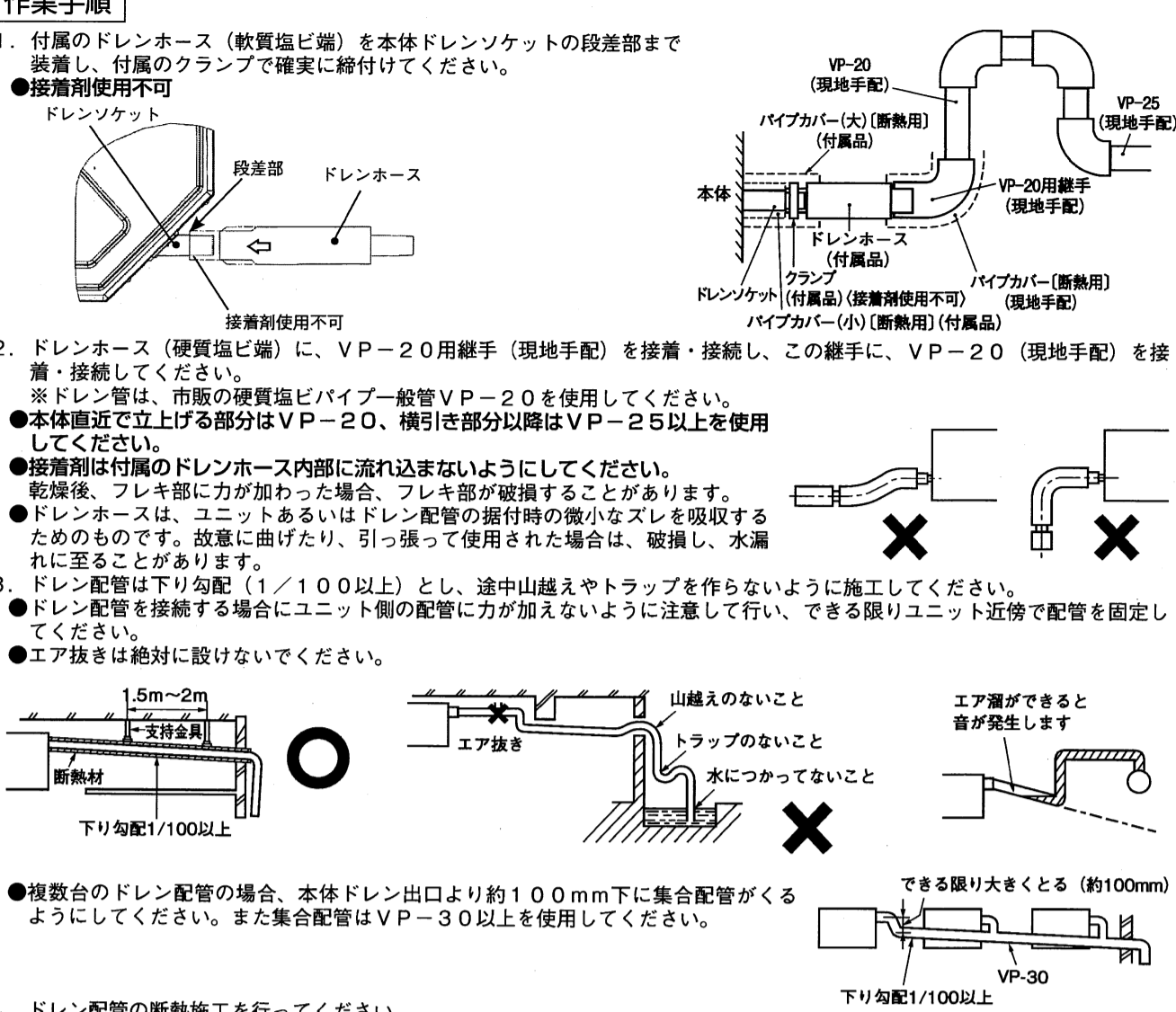
ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付け説明書に従って確実に排水するように配管してください。不確実な場合、屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
 - ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
 - 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
 - 水漏れが起これば、断熱工事を確実に行ってください。
 - 施工後、ドレンが排水されていることを、ユニットドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
 - ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
- 試運転時にドレン排水が確実に実行されていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

⑥ ドレン配管のつづき

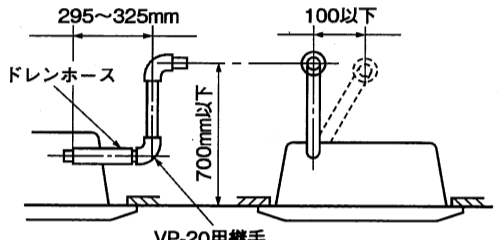
作業手順

- 付属のドレンホース(軟質塩ビ端)を本体ドレンソケットの段差部まで装着し、付属のクランプで確実に締めてください。
●接着剤使用不可
- ドレンホース(硬質塩ビ端)に、VP-20用継手(現地手配)を接着・接続し、この継手に、VP-20(現地手配)を接着・接続してください。
※ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-20を使用してください。
●本体直近で立上げる部分はVP-20、横引き部分以降はVP-25以上を使用してください。
●接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
●ドレンホースは、ユニットあるいはドレン配管の据付け時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。
- ドレン配管は下り勾配(1/100以上)とし、途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
●ドレン配管を接続する際にユニット側の配管に力がかからないように注意して行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。
●エア抜きは絶対に設けないでください。
- ドレン配管の断熱施工を行ってください。
●結露が発生し、水漏れをおこすおそれがありますので、ドレンソケット部および室内にある硬質塩ビパイプは確実に断熱してください。
※ドレンソケット部は、排水テスト実施後、付属のパイプカバー(小)をドレンソケット部に装着した後、付属のパイプカバー(大)にてパイプカバー(小)、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープにより隙間のないように巻いてください。



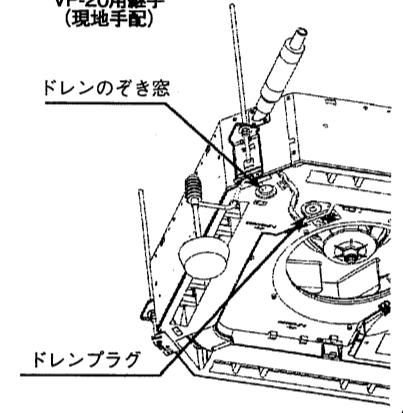
ドレンアップする場合

- ドレン配管の出口高さは、天井面より700mmまで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内処理願います。



ドレン排水テスト

- ドレン配管工事後の完了後に、排水が確実に実行されていることを、接続部およびユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
 - 暖房期の据付けの際にも必ず実施してください。
 - 新築の場合には天井を張る前に実施してください。
- 本体吹出部より給水ポンプなどを使用し、ドレンポンプなどの電気部品に水をかけないように、本体ドレンパンの中へ約1000cc注入してください。
 - ドレン排水が確実に実行されること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。
ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。ドレン排水の確認は、ドレンソケット部(透明)より確認できます。
 - 排水テスト後は、ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。水抜き確認後は、ドレンプラグを元通りにはめ込んでください。ドレン配管の断熱を本体部まで完全に行ってください。



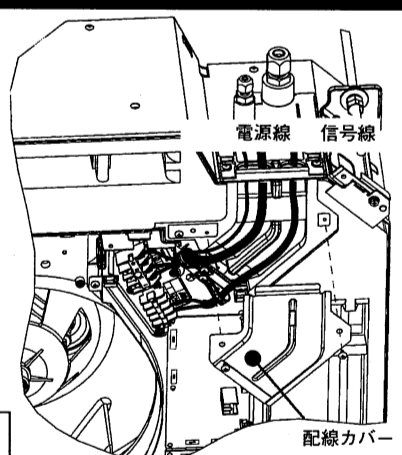
⑥ ドレン配管のつづき

ドレンポンプ運転方法

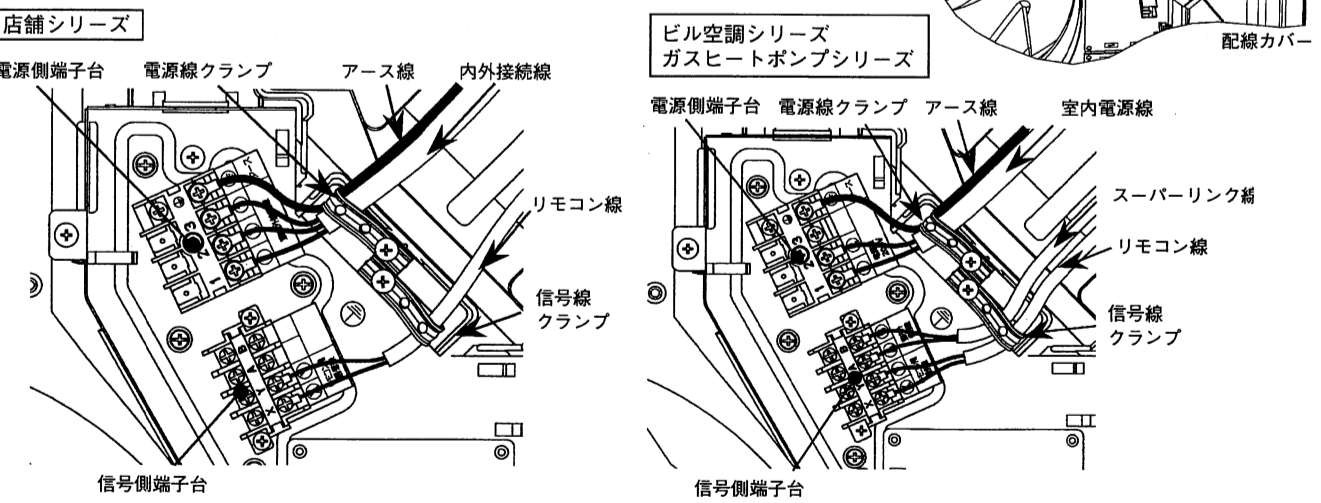
- 電気配線工事が完了している場合
ドレンポンプの運転がリモコン(ワイヤード)操作により可能です。運転操作方法は、電気配線工事説明書の「ドレンポンプ運転操作」をご覧ください。
- 電気配線工事が完了していない場合
室内ユニット基板のSW7-1をONにし、かつ、基板上的コネクタCNBを抜いた後、電源ON(端子台①、②へAC200V)すると、ドレンポンプのみ連続運転します。ドレン排水確認後は、必ずSW7-1を元の状態(OFF)に戻し、かつ、基板上的コネクタCNBを差し込んでください。

⑦ 電気配線取出し位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」(内線規程)及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
- 電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になります。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。



- 制御箱の蓋(ねじ3個)を取外し、配線カバー(ねじ2個)を取外してください。
- 各配線をユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
- 各配線をクランプで固定してください。
- 取外した部品を元通りに取付けてください。



⑧ パネルの取付

- パネルは、電気配線工事後に、ユニット本体に取付けてください。
- パネルの取付方法は、パネル付属の説明書をご覧ください。

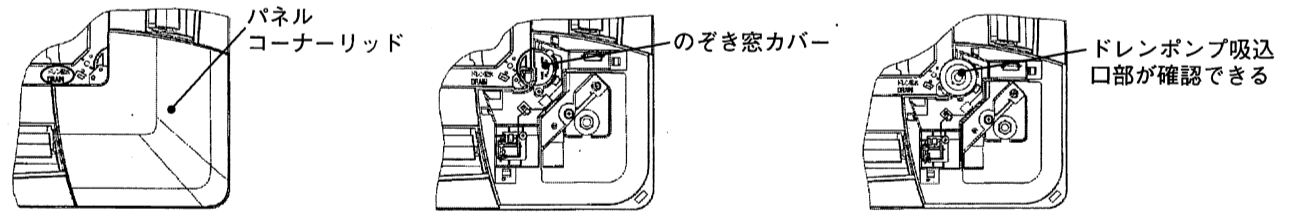
⑨ ユニット据付け工事完了後のチェック項目

チェック項目	不良だと...	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

⑩ ドレンパン汚れ確認(メンテナンス)

ドレンパン汚れ確認方法

- パネルを取外さずに、ドレンポンプ吸込口部のドレンパンの汚れが確認できます。(高性能フィルタなどオプションスペース取り付け時は確認できません。)
- パネル吸込グリルを開け、ドレンポンプ側のパネルコーナーリッドを取外してください。
 - パネルコーナーにあるのぞき窓カバー(ねじ1個)を取外してください。
 - のぞき窓からドレンパンの汚れを確認してください。汚れが多い場合は、ドレンパンを取外し、ドレンパンを清掃してください。
 - 汚れ確認後、のぞき窓カバーを確実に装着してください。装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。



ドレンパン取外し時の注意事項

- ドレンパンには仮止め機構がついています。ドレンパン取外し時、および取付け時には注意願います。ドレンパン取付ねじ(4個)取外後、仮止めフックを外してください。ドレンパン取付け時は、仮止めフックを取付け後、確実にねじで固定してください。

